



## 新型コロナウイルスワクチン接種について

新型コロナウイルスワクチンの接種は、市民の皆さんに受けていただくよう勧めています。強制ではありません。接種券に同封されている説明書を確認するなど、予防接種による「感染症予防の効果」と「副反応のリスク」の双方を理解した上で、接種を受けるかどうかの判断をしてください。

また、職場や周りの人などへの接種の強制や、接種を受けていない人への偏見や差別につながる行為、人権侵害、誹謗中傷などは絶対に行わないでください。

## ●新型コロナウイルスワクチンは、発症を防ぐ効果が認められています

新型コロナウイルスワクチンは、2回の接種によって発症(発熱やせきなどの症状が出ること)を防ぐ効果が認められており、有効性は約95%です。 ※インフルエンザワクチンの有効性は約40～60%

## ●あなた自身のためだけでなく、医療機関の負担を減らすための重要な手段にもなります

多くの方が接種を受けることにより、重症者や死亡者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待されます。

## ●どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります

一般的にワクチン接種後には、免疫をつけるための反応が起こることにより、接種部位の痛み・発熱・頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。

治療を要したり、障害が残ったりするほどの副反応は、極めて稀ではあるもののゼロではありません。予防接種による健康被害は、予防接種法に基づく救済(医療費・障害年金などの給付)が受けられます。

## Q ワクチン接種を受けた後、熱が出たらどうすればよいですか

A ワクチンによる発熱は、接種後1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は、解熱鎮痛剤を服用するなどして様子を見てください。このほか、ワクチン接種後に比較的起こりやすい症状としては、頭痛、疲労、筋肉痛、悪寒(さむけ)、関節痛などがあります。2日間以上熱が続く場合や症状が重い場合には、医療機関などへの受診や相談を検討してください。



## ワクチンを接種した人へ

## ●ワクチン接種は2回必要です

通常、ファイザー社のワクチンは1回目の接種から3週間後に2回目の接種を、モデルナ社のワクチンは1回目の接種から4週間後に2回目の接種を受けることになっています。1回目の接種から3週間または4週間を超えた場合は、できるだけ早く2回目の接種を受けてください。

## ●ワクチンを接種した後もマスクを着用しましょう

ワクチンを接種した人から他の人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。3密の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行など、引き続き、感染予防対策を行ってください。

## 接種券の発送状況について(7月12日時点)

多くの市民から早期接種を希望する意見があることや企業、大学などでの職域接種が始まっていることなどを踏まえ、65歳以上の人や基礎疾患を有する人に加え、16歳(平成17年6月30日までに生まれた人)から64歳までの人の新型コロナウイルスワクチン接種券を7月中旬までに届くように発送を繰り上げました。

### ◆集団接種会場における緊急時(地震、風水害など)の実施の可否に関するお知らせ◆

緊急時(地震、風水害など)の実施の可否については、**原則、当日午前6時**に以下の方法でお知らせします。

- ・緊急メールとよた
- ・豊田市公式SNS(Twitter、Facebook、LINE)
- ・市ホームページ

緊急メールとよた  
への登録はこちら



※上記の方法で確認ができない人は、**新型コロナウイルス感染症ワクチン接種コールセンター**(午前9時～午後5時)に確認してください

### ■集団接種会場における地震、風水害など緊急時の対応について■

市内で震度5弱以上の地震が発生した場合や、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」・「暴風警報」・「警戒レベル4避難指示」・「警戒レベル3高齢者等避難」が発令された場合は、原則として、以下のとおり対応します。

- ・午前6時以前に解除された場合 … 平常通り
- ・午前6時を過ぎても発令中の場合 … 中止
- ・開始後に発令された場合 … 発令後、原則中止

※**基準によらず実施又は中止の判断をする場合があります**

新型コロナウイルスワクチン集団接種を中止した場合、接種予定者への対応は以下のとおりとします。

- ・1回目の接種予定者  
⇒ 再度予約をお取りください。
- ・2回目の接種予定者  
⇒ 市で振替を行います。後日、振替後の接種日時をお知らせする文書を郵送します。

(上記については県大規模集団接種会場を除きます)

### 熱中症にご注意を！！

マスクの着用により、皮膚からの熱が逃げにくく体温調節がしづらくなったり、気づかぬうちに脱水になったりすることがあります。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」とマスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。

